隠された真実

第1幕・入り口



01 / 15・記憶

旅立つ前のブラチスラバ

ブラチスラバでの大学生活は、技術の話、尽きない会話、世界への好奇心にあふれていた。



02 / 15・記憶

フランスへの誘い

学生仲間が、友好・文化交流団体を通じて旅の手配を手伝ってくれた。未知の世界が少し身近になった。



03 / 15・記憶

記憶では1993年の夏

本人の記憶では、フランスへの旅は1993年の夏だった。正確な日付はまだ特定されていない。



04 / 15・芸術的再構成

最初の印象

見知らぬ街並みと言葉、日々の出会いが新しい文化への視野を開いた。この場面は芸術的に再構成されている。



05 / 15・記憶

思いがけない出会い

フランスで、オランダ出身のある人との交際が始まった。その縁が、後のマーストリヒト滞在につながった。

隠された真実

第2幕・つながり



06 / 15・記憶

マーストリヒトでの仮住まい

マーストリヒトでは、見知らぬ環境の中で身近に暮らす日々を通して、他者を理解する新たな視点が生まれた。



07 / 15・芸術的再構成

ともに過ごす日々

音楽、文化、散歩、語り合いが、大切な時期の日常を形づくった。この場面の細部には創作による描写が含まれる。



08 / 15・背景

1993年を彩ったボウイの音楽

1993年に発表されたデヴィッド・ボウイのアルバム『Black Tie White Noise』は、当時を思い出すための大切な手がかりになった。



09 / 15・考察

変わりゆく内なる視点

アイデンティティや女性としての自己にまつわる問いは、すでに芽生えていた。この旅は、それをあらためて考える場となった。



10 / 15・編集上の注記

記憶は逐語録ではない

実際の体験と、振り返ってそこに見いだした意味とは別の層にある。当時の言葉どおりであるかのような会話を創作することはしていない。

隠された真実

第3幕・意味



11 / 15・記憶

帰郷して、さらに問いが生まれる

帰郷しても探究は続き、ピーター・デイヴィッド・ベターの録音や著作にも触れるようになった。



12 / 15・記憶

最初の文章資料集

書き留めた資料を集めたことが、後の ufoaliens.info に先立つ文章企画『Information Regarding Aliens and UFO』につながった。



13 / 15・編集上の注記

主張は証拠ではない

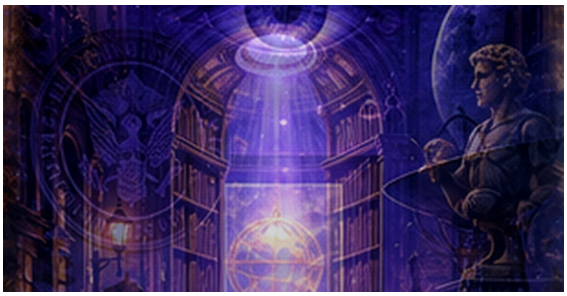
論争を呼ぶ主張も資料として保存できます。ただし、保存することが、歴史的に確かめられた出来事として示すことになるわけではありません。



14 / 15・考察

確証のないつながり

人生の出来事の中に、つながりや偶然の一致を読み取ることはできる。その解釈は確定したものではない。



15 / 15・芸術的再構成

一つの章、続く道

フランス、マーストリヒト、音楽、調査。第三の出来事はここで区切りを迎えるが、より大きな物語は続いていく。